

研究分野	海洋構造	部名	浅海環境部
研究課題名	陸奥湾海況自動観測		
予算区分	県単		
試験研究実施年度・研究期間	H.7 ~ H.18		
担当	小野寺 陽子		
協力・分担関係			

〈目的〉

陸奥湾海況自動観測システムを運用し、陸奥湾の海況を即時的、連続的に把握し、その結果を海峡情報として提供するとともに、海況予報技術の確立を目指す。

〈試験研究方法〉

陸奥湾海況自動観測システム（平館、青森、東湾、野辺地）で観測された水温、塩分、流向流速、溶存酸素量、風向風速などのデータをもとに海況の推移を把握する。観測項目、観測地点を以下に示す。

表 陸奥湾海況自動観測システム観測項目

ブイ名	観測地点	観測水深	観測項目					
			水温	塩分	溶存酸素	流向流速	気温	風向風速
平館ブイ	湾口部 平館村地先 北緯 41° 9' 7" 東経 140° 40' 40" 水深47m	1m	○	○				
		15m	○	○		○		
		30m	○	○				
		45m	○	○		○		
青森ブイ	西湾側 青森市地先 北緯 40° 54' 58" 東経 140° 47' 49" 水深45m	1m	○	○*1				
		15m	○	○*1				
		30m	○	○*1				
		44m	○	○*1				
東湾ブイ	湾央部 北緯 41° 6' 4" 東経 140° 57' 57" 水深49m	1m	○	○			○*3	○*3
		15m	○	○				
		30m	○	○	○			
		48m	○	○	○			
野辺地ブイ	東湾側 野辺地町地先 北緯 40° 59' 1" 東経 141° 10' 4" 水深38m	1m	○*2					
		15m	○*2					
		36m	○*2					

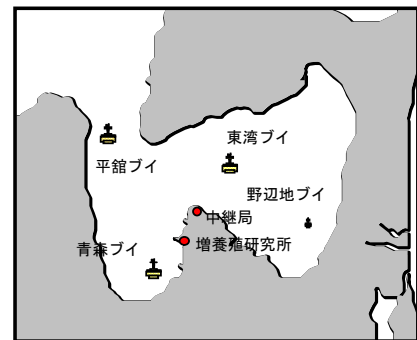


図1 陸奥湾海況自動観測システム観測地点

- *1: 青森ブイの塩分測定は、ブイ更新により、2006年3月18日終了。
 *2: 野辺地ブイでの水温測定は、撤去により、2005年12月12日終了。
 *3: 東湾ブイにおける気温、風向風速は海上約4mで観測。

〈結果の概要・要約〉

各ブイにおける年間の半旬別平均水温の変化範囲は、平館ブイ 1m 層で 5.6～25.4℃、15m 層で 7.0～24.9℃、30m 層で 6.3～24.0℃、底層で 6.8～21.3℃、青森ブイ 1m 層で 3.8～25.4℃、15m 層で 3.8～24.5℃、30m 層で 3.9～23.7℃、底層で 4.1～20.4℃、東湾ブイの 1m 層で 2.3～25.1℃、15m 層で 2.4～24.3℃、30m 層で 2.7～23.4℃、底層で 3.0～18.3℃、野辺地ブイの 1m 層で 1.9～25.5℃、15m 層で 1.9～24.3℃、底層で 2.1～22.8℃であった。

〈今後の問題点〉

システムの耐用年限（16年10月）が到来しており、更新までの平館、東湾ブイの保守管理に困難が予想される。

〈次年度の具体的計画〉

本システムの通年、毎時観測稼働率 100%を目指す。但し、18年度システム更新整備工事により平館と東湾ブイの観測を一時的に休止することもある。

〈結果の発表・活用状況等〉

- ・陸奥湾海況情報（No. 518～569）毎週火曜日発行。36機関（湾内市町村、漁協、関係機関）にファッ

クス配信、当研究所ホームページ上に掲載。

- ・東奥日報と読売新聞（9時）、河北新報（10時）朝刊に水温情報掲載。
- ・水温情報テレホンサービス（随時）、2005年の利用件数は719件（運用日数342日）
- ・ホタテガイ春季・秋季実態調査に関わる会議（全4回）、ホタテガイ天然採苗会議（全10回）、ホタテガイに関する情報会議（全10回）において海況情報提供。
- ・弘前大学総合情報処理センターへの海面水温の衛星温度情報の補正のため毎時観測データを18年3月13日まで提供。（新システム更新工事により廃止）
- ・蓬田村「海のみたまつ館」（県土整備課砂防課所管）の公開データとして毎時観測データを18年3月13日まで提供（新システム更新工事により廃止）
- ・その他、県保健衛生課、県環境保健センターに対し9時に水温情報提供。

〈主要成果の具体的なデータ〉

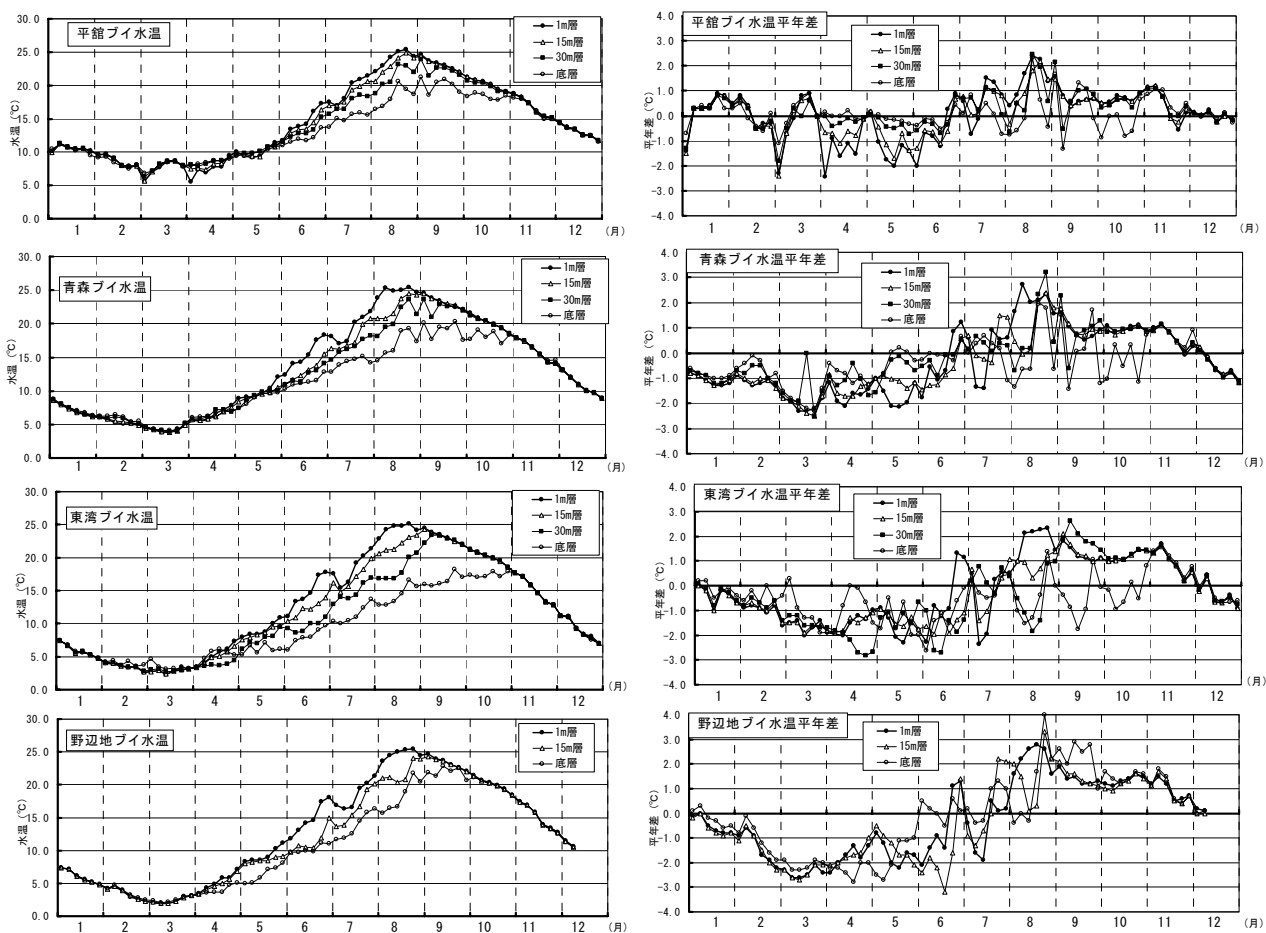


図2 ブイ別全層の半旬別平均水温とその平年差